

みなさんお元気ですか。

2017年6月の道場での様子をお便りします。ご覧くださいませ。



6月10日、首都マナグア市からローカルバスに乗って約3時間、東部のフィガルパ市に来た。フィガルパ市が任地である JICA 青年隊員による日本文化祭が行われ、当道場からは太刀や杖を使った演武を披露した。演武参加者は、道場長の Anibal(二段)、Mauricio(3級)、Jose G (3級)。全員袴を着けて、1から5の太刀と八双返しの部の杖形を披露した。また、道場長と私のふたりで気の結びの太刀、組杖合わせの変化技を披露した。ニカラグアでのイベント会場では、一般的に観客は騒々しく、ジッとしていないことが多い。今回の私たちの演武は、20分くらいだったけれども、観客は静まりかえって子供たちまでもが席から離れずジッと注目していた。こちらの人たちは、サムライのような衣装をしているだけで、興味があるらしい。演武が終わったら、また騒々しさが戻った。



私の任期もあと3か月となった。今までの1年と半年間は、体術、武器技と別々に指導してきた。しかし、残りの期間は、体術と武器技の理合いをテーマにして指導しようとした。いつも稽古の始めは、1から5までの剣の素振り、その次は、剣対剣の合わせ。そして、太刀取り、最後は体術による稽古とした。このクラスでも半身の形と合わせを強調して説明した。剣は、絞るように持つと言っても、なかなか持ち方を理解してくれない。剣の振り下しと同時に腰を捻ることも説明した。こちらの方は、体型的に腰の位地が高いようで、振り下しと同時に腰も下げるのだと言ってもなかなか上手くない。それでも袴をはいて、剣を握って稽古することがおもしろいのか、みんな真剣にやっている。この剣と体術の理合いを説明することで、体の捌きがより理解でき、初心者にも説明しやすくなった。また、生徒も納得するようになった。私としては恥ずかしいことだが、剣と体術は、必ず一緒に稽古することが重要だと改めてわかった。



朝の稽古は、杖を使った技を主に稽古している。杖の二十の形、組杖1、合わせ、杖取りなど。公園の道場で朝稽古をしているが、マットは敷かない。ときどき道場が使えないときがあるので、右写真のように屋外での稽古をしている。生徒は2、3人だけど、みんな熱心だ。写真の背の高い方は、**Osimin**。彼は、コールセンターで夜働いている。ホテルの予約関係の仕事だそう。世界中からホテルの予約を受け付けているとのこと。彼は英語がうまいし、しっかりしている。たぶんアメリカ企業の24時間体制で働いているのだろう。また、土曜日の休みは、大学で勉強もしている。彼は最近私にこう言った。最近ニカラグアのビジネスは発展傾向にある。しかし、相変わらず交差点では子供たちがお金を乞うたり、物を売ったりしている。街は汚い。人々のマナーは悪い。この国で一番大切なのは、教育だ。政府は分かってない。ニカラグアでも自国のことを思うひとがいるんだと、私は感心した。



6月12日、はるばる日本から私の道場の先輩**O**さんがニカラグアに来て下さった。そして、道場で生徒たちに稽古をつけて下さった。また、日本からのお土産としてけん玉を持ってきて下さった。ニカラグアでも、けん玉らしき（棒状で2か所に玉を刺すようなもの）はあるのだが、日本のけん玉（十字型）はみんな初めてで喜んだ。この日は、私は前立腺肥大症で、大変なおもいをした翌日で、稽古は見学していた。**O**さんは、二日間指導して下さいました。一日目は、杖。二日目は体術。英語とときどき日本語の交じった説明だったけど、生徒たちは一生懸命**O**さんの真似をして努力していた。ニカラグア人は、初めての先生でもなかなかまじめにやっていたので、改めて感心した。生徒をみなおした。

